

# 合併を迎えて



合併記念式典が盛大に



合併協定書に調印

平成18年3月27日、本市は下総町・大栄町と合併して新生「成田市」として新たなスタートを切りました。また、平成19年1月には小泉一成氏が市長に就任しました。

## 新生「成田市」の誕生

平成17年3月15日、成田市・下総町・大栄町合併協定調印式が行われました。県知事、県議会議員、1市2町の議会議員、合併協議会委員など約100人の出席者が見守る中、小林攻成田市市長・可瀬力下総町長・佐藤末勝大栄町長が合併協定書に調印。その後、合併協議会委員が立会人として署名を行いました。

協定書の調印後、1市2町ではそれぞれ議会に合併に関連する議案を提案し、可決されました。それを受けて同月25日、平成18年3月27日から下総町・大栄町を廃止し、その区域を成田市に編入するという合併申請書を県知事に提出しました。

1市2町ではその後も、合併しても市民サービスが低下することのないよう、事務手続きの統一化など念入りな打ち合わせが進められました。そうして迎えた平成18年3月27日、成田市役所庁舎前でテープカットが行われ、新生「成

田市」が誕生したのです。

同年4月29日には合併記念フェスティバルが国際文化会館で開催され、記念式典のほか、大栄地区の伝統芸能である伊能歌舞伎などが披露されました。

## コミュニティバスが運行開始

路線バスが廃止された地域の新たな交通手段として、コミュニティバスの実証運行が平成17年4月1日から始まりました。当初の路線は、遠山地区と久住地区からそれぞれ市役所・保健福祉館・成田赤十字病院などを結ぶ2路線でした。

乗り継ぎなしで市内の主な公共施設に行けるとあって利用者は順調に増え、路線も順次追加されていきました。現在は7路線が運行中です。

## 新市長に小泉一成氏

平成19年1月22日、小林攻市長に代わり小泉一成氏が新市長に就任しました。

同年2月9日の市議会定例会の

「平成17年～21年の出来事」

平成17年	3月	成田市・下総町・大栄町が合併協定書に調印、千葉県知事に合併申請
	4月	コミュニティバスが運行開始
平成18年	3月	成田高校が第78回選抜高校野球大会に初出場・初勝利 「NARITA」ナンバーを導入
平成19年	1月	小泉一成氏が市長に就任
平成20年	6月	市役所「休日窓口サービス」スタート
	3月	豊住中学校が閉校
平成21年	10月	成田空港B滑走路が2,500メートルに延伸



初出場のセンバツで勝利



放水のアーチをくぐりB滑走路へ



地元住民の「足」として活躍



初登庁する小泉市長

ご当地ナンバーを導入

平成18年3月27日から、市が原動機付自転車などに交付するナンバーが「NARITA」のローマ字ナンバーに変わりました。また、同年10月10日には、それまでの「千葉」ナンバーから、ご当地「成田」ナンバーが誕生しました。



ご当地ナンバーを早速取り付け

休日窓口サービス始まる

市民の生活に関連の深い窓口を毎月第2・4日曜日にオープンする「休日窓口サービス」が、平成20年6月8日から開始されました。これは、仕事などで平日に窓口に来られない市民のために、市民課・税務課(現在の市民税課・納税課)・保険年金課など5つの課で証明書の発行や申請の受け付けなどを行うもの。

B滑走路が2,500メートルに

繁忙期には1日600人以上の人が来庁するなど、多くの人が利用するため、平成23年11月以降は毎週日曜日に回数を増やして実施しています。

市民の生活に関連の深い窓口を毎月第2・4日曜日にオープンする「休日窓口サービス」が、平成20年6月8日から開始されました。これは、仕事などで平日に窓口に来られない市民のために、市民課・税務課(現在の市民税課・納税課)・保険年金課など5つの課で証明書の発行や申請の受け付けなどを行うもの。

成田空港で2本目の滑走路として、平成14年に供用開始された暫定平行滑走路(B滑走路)は、当初の計画よりも短い2,180メートルでした。このため一部の大型機や長距離国際線の離着陸に利用できないという弱点がありました。平成21年10月、B滑走路が念願の2,500メートルに延伸。国際線の新規路線が就航し、利便性が飛躍的に向上しました。